

飲水思源

町長

松岡市郎

台湾留學生が残してくれたプレゼントから思う

町内に事業所があるエノ産業の台湾事務所長、大隅千晶さん（現在東川町東アジア地域交流促進協議会台湾地域海外アドバイザー）に、「台湾の方々は日本語に関心がありますか」と聞いたところ、

「間違いなくあります。台湾での共通語が日本語の場合があるくらいですから」との返事をいただいたことがあった。その後大隅さんの人脈を通じて、すぐに東川町と台湾の人々との間で、日本語学習と日本文化体験を中心とした研修講座の受講という人的交流が始まった。2010（平成22）年6月のことであった。

台湾からの研修生は、20代から60代と幅広く、今までに200人を超えている。どの方も明るく、礼儀正しく、勉強も大変熱心、と先生の間でも評判だ。

昨年9月、ワーキング・ホリデービザで入国した王恬婷（オウ・イテイ）さんが、帰国するに当たり「お茶は日本のものですが、お菓子は台湾からのものです」とお茶とお菓子持参で本職を訪ねてくれた。その心温まる気持ちとサービスの心遣いに驚いた。

彼女は台湾の私立大学で4年間日本語

を学んだが、在学中は日本語に強く関心を持ってなかったようである。しかし東川での研修と滞在を通じて日本語と日本の生活が自分に最も合っていることが分かったという。

「この1年間、東川町で楽しく学び、働き、本当に親切にしてもらいお世話になった」と話してくれた。「お父さんはダンプの運転手ですが、私立大学を卒業させてくれました。感謝の気持ちいっぱいです」「東川町のおいしいお米10kgを家族へ船便で送りました」と。

王さんは、ET（イー・ティー）というあだ名で呼ばれていて、町内の鈴木工房で木材を使って小さなETづくりに励んだ。その成果数点を見せてもらったところ、大変かわいい出来栄の作品だ。なんとなく本人にも似ているような気がする。

台湾からの語学研修生はじめ多くの人々に訪問いただき、大変良い印象を持って帰国されるのは町民一人ひとりが心温まる交流を展開してくれているからである。今後とも町民との出会いが最高であることを願っている。

俳句

コオロギの最終楽章ピアノシモ
秋の風老いし二人の米を研ぐ
一雨が残暑持ち去り今朝清し
紫蘇煮つめ作るジュースの香り満つ
捨てられぬ祝い手拭い敬老日
朝夕に素肌にふれるそぞろ寒
ほらそこに渡りたくなる秋の虹
老犬の歩み緩みて秋の露
諸事すべて残暑のせいで果たし得ず
さびついた線路をまたぐ萩の花
幸いの種もひと粒鳳仙花
嫁ぐ日の笑顔に染めし鳳仙花
部屋のすみ仕事納めか扇風機
新秋や草食む馬と刻わかち
夕暮れはみんな旅人赤とんぼ
もう取ろう明日は取ろう秋すだれ
もろこしの味がとりもつ長電話
少年の白いTシャツ秋暑し

徳光吐苦
杉山りつ
山口佐知子
横田則子
若田久
高瀬潤
石澤清宏
澤田久美子
松山蓉子
三島智
若田郁
本田咲
山内みゆ
長谷川きみゑ
小林ろぼ
高橋公花
杉山ひろのり
保科なほ

